

2024 年度 自己評価結果公表シート

鴨島中央認定こども園

1. 本園の教育・保育目標

<教育・保育目標>

- ・明るく元気で基本的生活習慣を身につけたこども
- ・よく見る目、よく聞く耳、よく働く手足を使って、自分で考え、豊かな感性をもって自己表現できるこども
- ・友達と楽しく遊ぶとともに、思いやりのあるこども

<教育・保育方針>

- ・一人一人を大切にする教育・保育
- ・遊びを大切にする教育・保育
- ・目に見えないものを大切にする教育・保育
- ・地域のすべての子どものために

2. 2024 年度の評価項目

- (1) 教育・保育について
- (2) 安全管理および環境整備
- (3) 保護者との連携
- (4) 地域、社会との連携
- (5) 職員の資質向上について

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
(1) 教育・保育 について	・ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領やキリスト教保育指針に基づき、各種計画を立案し、教職員一同が共通理解のもとに、教育・保育に取り組んでいる。 ・ 教職員は、日頃から園児一人一人のありのままの姿を受け止め自己肯定感が育つような言葉かけを大切にしている。また、園児が園生活の中で遊びが発展し夢中で遊び込めるような環境を工夫することで、心身共に健やかに成長するよう子どもの育ちを支えていくようにしている。 ・ 月末には教育・保育を振り返り、園児の育ちを教職員間で情報共

	有し、翌月の指導計画の立案に活かすようにしている。 行事や学期末毎の振り返りでは、問題点や改善点など課題となることを出し合い、より良い教育・保育が行われるように考え、話し合い、改善している。 ・ 3～5 歳児の異年齢児交流活動を毎週計画の中に入れ取り組んできた成果として、思いやりや譲り合う心が、子ども達の中に育ってきていることを実感している。
(2) 安全管理 および 環境整備	・ 年間の避難訓練を計画し、それに基づいて地震・火災・水害・防犯等を想定し毎月 1 回実施している。年 2 回消防署に通報訓練、年 1 回消防署の方が来園し避難・消火訓練の指導を受けている。 ・ クロネコヤマトの交通安全教室に参加し、園児は、自動車の周りでは絶対に遊んではいけないことを、劇を通して学んだり、横断歩道での安全確認や通行の仕方等を、実際に歩いて体験したりした。園児は、身近にある道路について、安全への関心や意識を高めることができた。 ・ 園庭の遊具・各クラスの用具などは、毎日点検しており、また年 2 回施設内外の安全点検も行っている。 ・ 2 月に 3 回目となる災害時における園児引き渡し訓練を行った。訓練に参加することで、保護者の災害時の避難に対する意識の高まりを感じた。教職員は今までの経験から、よりスムーズに訓練ができたので、これからも引き渡し訓練を続けていきたい。
(3) 保護者との 連携	・ 送迎時や連絡帳を通して子どもの様子を伝え合い、保護者の思いを受け止めるように心がけた。怪我の報告書には、保護者に伝えたときの保護者対応なども記入するようにしている。 ・ 行事の取り組みについては、保護者会役員の意見や、手紙でのアンケート希望を取り、要望を聞きながら行った。 ・ 保護者研修会は『いきいき子育てのために』と題して、昨年度できなかった講師先生を招いた講演会を行うことができた。 ・ 掲示板を、玄関ホールに設置して情報伝達をしている。学年ごとの連絡事項などは、ホワイトボードを活用し掲示している。
(4) 地域・社会と の連携	・ 中高生の職場体験や、中学 3 年生のふれあい保育実習を通してお兄さんお姉さんと交流することができ、園児は大変喜んでた。 ・ 「吉野川に生きる会」の依頼で、5 歳児の共同製作の作品を市役所ロビーの子ども絵画展に展示し、地域の方々に観ていただくことができた。 ・ 吉野川市のふれあいフェスティバルに 5 歳児が参加し、地域の

	方々にダンスを披露したことで、心の成長を促す貴重な経験となった。今後もこのような機会を通じて、子ども達の成長を見守り、支援していきたい。 ・就学に向けて、入学予定の小学校と連絡を取り合い、円滑な移行ができるよう連携を図った。 ・一時預かり事業（一般）では、年間を通しての利用があり、地域の子育て支援拠点としての役割を担った。
(5) 職員の資質向上について	・教職員は、園内・園外研修を通して、専門的な知識や技術を学び、資質向上に努めている。 ・園外研修での学びは報告の機会をもち職員全員に周知した。 ・11月の園内研修では、人権保育について講師先生を招き、研修を通じて「言葉かけ」は人権保育の基本であり、日常の中で最も実践しやすい支援であることを学んだ。今後も子どもの心を尊重する温かな言葉かけを保育の中心に据え、職員全体で共通の意識を持って取り組んでいきたい。

4. 保護者アンケート調査および総合的な評価結果

・2024年度の保護者参加の行事では、アンケート結果や役員会で希望を聞き、昨年と同様運動会は2部制、クリスマス発表会は年齢別でおこなった。 ・5月・7月・9月の参観日は2部制で行ったが、1月の参観日は一斉に行い、その後の保護者研修会へとつながるような時間設定にした。 ・「食育」の取り組みでは、野菜の栽培に親子で関心を示し観察している姿が多く見られた。園児は収穫の喜びを体験し旬の野菜を味わったり、野菜の皮むきやクッキングを体験したりして、食への興味や関心が高まった。5歳児は、お泊まり保育の日に友達と協力してカレー作りに挑戦した。その後に家庭でも保護者の方と一緒にカレー作りや料理の手伝いをするようになったとの嬉しい報告があり、家でも「できた」という達成感や、手伝うことで「自分にもできることがある」という自信につながっているようだ。 ・年度末に実施した保護者アンケート調査では、「給食やおやつに満足していますか」、「保育参観や行事を通して子どもの成長を感じることができていますか」、「この園に入園して良かったと感じていますか」の問いに対して、ご家庭からの高い評価を頂き、教育・保育内容に対して、満足していただいているとの結果をいただくことができた。この結果を励みに今後も教職員間で一層研鑽を積み重ねていきたい。 ・要望として、「マチコミから当日・翌日の欠席、早退等の連絡ができるようにしてほしい」などの意見があった。要望に答え2025年度4月からマチコミでも連絡できるようにする。その他保護者アンケートから今年度の要望や課題を検討し、次年度の教育・保育に取り組んでいきたい。

5. 今後取り組むべき課題

教育・保育	・日々の遊びや生活の中から、学びの芽生えに繋がっていくように遊びの環境を整えていく。 ・園内の異年齢児交流の中で、子ども達が年齢の枠を超えて、共に学び合い成長していくことを願い実践を進める。 ・認定こども園から小学校への円滑な接続ができるように、2025 年度から発足した吉野川市幼小架け橋期連絡協議会のプロジェクトに参加し、発達や学びを共有して、連携強化を図る。
安全管理マニュアルに基づき、防災・防犯体制の確立	・教職員各自が園内の避難経路や災害時の役割分担を再確認して、安全に対する意識の向上に努める。 ・災害時における引き渡し訓練から見えた問題点や改善点を見直していきたい。また、緊急時の対応を決めておくことで事業の継続や早期の復旧につながるよう B C P（事業継続計画）の見直しを継続して行う。 ・2025 年度には防犯訓練に警察署の方をお呼びし、改善点を伺い見直しを図っていく。

6. 苦情解決第三者委員の評価

・保護者からの要望に対応した事例に対する意見 ① 園庭開放について 園庭開放の意味を保護者に周知することや保護者の責任において園児を遊ばせることを明確に伝えた方がよい。 ② 性教育について 性教育の一環として絵本を教材にしてプライベートゾーンの大切さを小さい時から伝えているのは、良いことである。 ・アンケート回収率の低さに対する意見 回収率を上げ、より多くの保護者の意見を聞くためには、マチコミによる回答方法の利用や、アンケートの時期を検討していくことが大切である。

7. 財務状況

・出納経理は、会計コンサルタントによる指導により適正に運営されている。 ・保護者会会計は、保護者会監事に監査を受けて適正に処理している。
--